

答弁 4月からの支線運行の導入以降、半年以上経過した時点で乗車人数は極めて少ないという結果でした。この要因は、PR不足等と考えています。

よしもと 厚労省は、「地域にとって望ましい公共交通のすがた」を明らかにするためにマスタープランとしての役割を果たす「地域公共交通網形成計画」を促進しています。策定事業には1/2の補助金が国から出ます。全国では町村含めて528件作成され、県内では和歌山市や橋本市、紀の川市で通院や買い物、通学、観光、町づくりを考えた地域交通網が作成されました。田辺市でも2019年度から取り組みを始めました。「地域公共交通網形成計画」は住民のニーズ(要望)を細かくつかむことが最も大切なこととあります。田辺市では、国の補助を受け、旧5市町村に分けて、すべての町内会長や老人会、民生委員、PTA会長、商工会、観光課、女性会、障害者団体などあらゆる分野の方が集まり、要望を直接聞いています。その5つの地域の要望を有識者(和歌山大学の教授)も入る協議会で住民も参加し議論することで地域にあった公共交通網を作成するよう計画されています。上富田町もこれから高齢化が進み、運転免許を返納する方が増えてきます。住民の声を直接聞き、上富田町にあった公共交通網になるようにすべきだと考えますが、どのように思われますか。

町長 田辺市が行っている「地域公共交通網形成計画事業」に取り組むことは考えていません。住民へのアンケート調査でコミュニティバスの運行を改善するようにします。

◆九鬼議員の一般質問

介護保険事業から交通弱者の交通権を考える
高すぎる国保税の負担軽減を



今回の質問では、 住民に対して1月広報でアンケートを実施するという成果は得られました。
2020年10月に大幅な運行改正が行われます。アンケートを活用し、使いやすい運行になるよう皆さんの要望を町に届けてくださるようお願いいたします。
高齢化による免許返納者は今後増えていきます。子どもたちが増えている地域もある中、限られた予算で効率的な運行をするためには、直接住民から要望を聞くことは、時間がかかっても必要なことです。住民と共にコミュニティバス以外の方法も含めた地域公共交通網を作っていくという私の提案は、今回受け入れられませんでしたが、引き続き要望していきます。